



国際女性デー ミモザウィークくにたち 2025



私が知りたい、
知りたかった

SRHR

性と生殖に関する健康と権利



～わたしのからだは
わたしのものの的一步先へ～

＼今年で50周年／

国際女性デー

3月8日は、「国際女性デー」。女性の権利を守りジェンダー平等の実現を目指すため、1975年(国際女性年)に国連により定められました。国際女性デーのシンボルは「ミモザ」の花。



私のからだは私のもの



どんな性を好きになる？

好きにならない？



パートナーとどんな
関係を築く？

一人がいい？

いつ・どのような方法で
何人の子どもを、産む？

産まない？



どんなことで
幸せを感じられる？



SRHR

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
性と生殖に関する健康と権利

自分の体、性や生殖について、誰もが十分な情報を得られ、自分の望むものを選んで決められること。そのために必要な医療やケアを受けられること。

私たちが心も体も健やかに、自分らしく充実した人生を生きるうえで欠かせない「**基本的人権**」です。

世界から遅れている!? 日本の性教育

寝た子を起こす!?

!?

性が乱れる?



もう社会に
起こされている

!!

「**妊娠の経過は取り扱わない**」とする **はどめ規定**

1998年の学習指導要領改訂

▶ 小中学校の学習指導要領には「性交」に関する記述がありません。

では、**性についてどこで情報を得ている?**

半数以上がSNS、ネット情報

(出典: I LADY, 「性と恋愛2023」
日本の若者のSRHR 意識調査ジョイセフ)

情報は溢れているけれど・・・

自分自身を大切にできる
情報にアクセスできている
だろうか?



子どもたちのことだけじゃない

子供に聞かれた時、大人もどう
答えたらいいかわからない。
大人も学ぶ必要がある。

子どもや若者への性暴力が社会問題となっています。

性に関して、**自分の身を守る**こと、**加害者にならない**こと、**尊重しあう**
ことを学ぶ・情報を選ぶ力をつけるために、何ができるのでしょうか?

世界では、人権尊重を基盤に幅広く性を学ぶ

「**包括的性教育**」が広がり、日本でも関心が高まっています。

いまさら聞けなくなってきた…?

包括的性教育 とは。



身体のことだけじゃないらしい！

国際セクシュアリティ教育ガイダンス 8つのキーコンセプト

2009年にユネスコなどによって作成されたガイダンス(2018年改定)

01 人間関係

02 価値観・人権・文化・セクシュアリティ

03 ジェンダーの理解

04 暴力と安全確保

05 健康とウェルビーイング
のためのスキル

幸福

06 人間のからだと発達

07 セクシュアリティと性的行動

08 性と生殖に関する健康

年齢別の学習目標があって、
5歳から始まるんだって！



テーマもこんなに
幅広いんだ

包括的性教育とは

体の発達や生殖などにとどまらず、ジェンダー平等や性の多様性、自己決定能力など、幅広く性を学びます人権を基盤とした性の教育です。

すべての人にとってのSRHR



男性の視点からSRHRについて紹介した冊子

『Men's SRHR MINI BOOK for All
～みんなで考える、男性の健康とジェンダー～』

(ジョイセフ2024年)



私の中から だから、知っておきたいこと



女性の体、人生設計の中で大きな転機となる妊娠。
今は妊娠したくない、そう選択した女性が避妊を選ぶことは大事な権利。

避妊のこと

海外では女性が主体的に行う避妊法が複数ありますが、日本では未承認のものが多い現状です。

—— 日本では未承認 ——



「ピル」って最近よく聞くけれど、どんなもの？

アフターピル（緊急避妊薬）



妊娠を希望していないけれど妊娠の可能性のある性行為があったとき

性行為から72時間以内のなるべく早い時期に飲むことで妊娠を防ぐ薬。医療機関の対面、オンライン診察により処方。
2023年11月～薬局で試験販売が開始されました。

避妊のためだけでなく
月経困難症等の治療
や**月経移動**のためにも
利用できます。

中絶のこと 予期せぬ妊娠はだれでも起こり得ること

墮胎罪（刑法） 明治時代から118年も改正されていない！

「中絶は犯罪」とされ、懲罰対象は女性のみ。
合法に中絶ができるのは母性保護法に例外規定があるため。

まるで「女性の罪」となるような法制度が残っているんだね



配偶者の同意（母体保護法）

中絶の際、DV被害者等を除き、配偶者の同意を必要とする。

安全な中絶のタイミングを逃してしまうことも…。世界でこの要件があるのは11カ国だけ！

経口中絶薬の承認 2023年4月

これまで日本で選択できる中絶法は心身に大きな負荷をかける手術のみでした。
経口中絶薬は世界80カ国以上で使われており、日本でもようやく認可されました。

未だ日本では生殖・子育てに関する役割と責任を女性のみを追わせる法制度・社会規範が根強く残っています。これらの選択を女性のみ押しつけるのではなく、社会全体で考えていくことが必要なのではないのでしょうか。

幸せのかたちは 人それぞれ

幸せの「正解」なんてないはずなのに、知らず知らずに「悪く言われないほう」を探ってしまうことありませんか？

いろんな生き方があっていい。家族のかたちもさまざまです。

結婚は？

孫を見せてあげられないって
なんか悪いなって思ってしまう
…少子化？とかも言われるし…

二人目は？ 子どもは**まだ**って
感じなの？

子どもがいない人には
わからないんだろうけど
と言われても…

結婚して出産するのが
一人前なら、そのように
やってやる！！

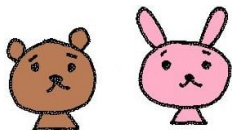
一緒に過ごしたい人も
見つけていないのに。

選びたくたって、
選べないことがあるってこと
誰が分かってくれるんだろう？

○○ばかりが優遇されてる！

でもさ、
自分で選んだんでしょ？

変な人って思われませんか？



良いや**悪い**はあるのかな…？

他人(や自分)の選択を尊重しないことは、
ときに相手や自分を傷つけ、分断にもつながります。



**あなた自身の選択を尊重する社会のために、
自分とは違う当事者性をもつ人の声を聞いてみよう！**

自分の人生を生きること

女・男性だから、母・父だから、妻・夫だから……。

じぶん^{より}＜役割＞になっていることが、生きかたを不自由に行っているかもしれません。

たとえば、

母

として生きること

私という存在が薄れていく感じ。



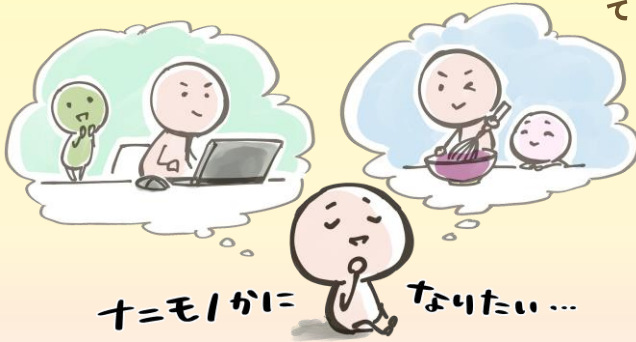
〇〇ちゃんママ～!

「よい母親」ってなんだろう？

仲間がいない時間もない

何かに属していないことへの不安。

何を指し
たらしい？



十=モ/が= になりたい...

母たちの声

母になって「じぶん」をちゃんと持っていないと、自分がどこかに行ってしまうそう…と感じて、「じぶん」を意識していなかったことに気が付きました。

でも役割として生きること、ずっと世間に求められてきた感じがしている。私の選択がまちがいだとは言われたくない！と思っています。

母になったことを後悔していないのは「個」として生きているから

——“役割”のなかに、自分の人生が隠れてしまっていないか？——

選んだこと、選ばされたこと、選べないこともあるけれど、

大切なのは「自分で選ぶことをあきらめない」ということ。



自分で決められることは
自由でいられることなんじゃないかな。



自分の生き方を選ぶにはどうしたらいい？

Check! 01

自分の感情を大切にする

- ・気が進まない…
- ・ムカムカ…
- ・しっくりこない…
- ・むなしい…



そんな気持ちも
大事な気持ち



Check! 02

「ふつう」に合わせなくてもいい

普通!

最低限!

良識!

ねばならない!

?



合わせたいのは「自分」なのか、「社会の規範」
なのかわからなくなることもあるよね？

Check! 03

ジェンダーの知識を得る

それは「あなただけの問題」だけではなく、「社会の問題」かも？
気づかないうちに私たちは「ジェンダー規範」や「性別役割意識」の
影響を受けていることが多くあります。

自分とは関係ない と思っている**ジェンダーの視点をもつ**ことは、
自分を守ることにもつながります



用語解説

【ジェンダーとは】

生物学的な性別（sex）に対し、社会的、文化的に作られる性別のこと。「男・女らしさ」といった社会によって作られた役割の違いにより生まれた性差のこと。

わたしのからだは わたしのもの の**一歩先へ**



かつて、私たちの身体に関する自己決定権が保障されていない時代がありました。「自分の人生を選ぶ」ことが困難な時代を経て、各時代の人口政策や社会規範に影響を受けながら、生や生殖の意義は大きく変化してきました。

性と生殖に関する自己決定権の主張が世界規模で広がったのは、1960年代以降のこと。リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考えが国際的に承認されたのは、1994年のことでした。

はたして現在、私たちは「わたしのからだ」をかけがえのないものとして尊重できているのでしょうか。

日本の刑法は、未だ戦前以来の「墮胎罪」規定が廃止されておらず、法制度の面では、女性の自己決定権が侵害されているとも言えます。

そのような社会を生きる私たちは、心や身体を大切なものと感じられず、「自分で選ぶ」という大きな壁の前に立ちすくむことあるでしょう。

自分の人生を、自分の身体を、唯一無二の大切なものとして扱うこと。

一つとして同じではない身体を抱え、異なる人生を生きている以上、誰にとっても当てはまる「正解」はありません。

生や生殖に関する決断には、喜びだけでなく、迷いや後悔、痛みも伴います。「選んだ」と思っていたことが、「選ばざるを得なかった/選ばされた」ことに気づくこともあります。



選べなかったことを選んでみる。

選ぶことを保留する自分を許す。

選んだことを手放す。

わたしのために、私が私の幸福を選ぶこと。



それはいつからでも始められます。 いっしょにやっていきましょう。



ミモザウィークにたち2025 イベント紹介

くにたち男女共同参画ステーション・パワソル



性教育の大切さが問われる中、何をどのように伝える必要があるのか、大人たちも正解がわからない。それぞれの時代の中でできたこと・できなかったことや実践されてきた物事を知って、世代間のギャップやジェンダー・性多様性のことを考えてみませんか？ワークショップもあります！

私が知りたい、**知**りたかった『性教育』のこと

日時 2025年3月23日(日曜日) 13:00~15:00
場所 国立新館にたちこくじん市民プラザ オープンスペース 対象 テーマに興味のある方
参加費 無料 定員 30名

お申し込み 042-501-6990 info@kuni-sta.com

私が知りたい、知りたかった「性教育」のこと

3/23 (日) 13:00~15:00

それぞれの時代で変わり続けた『性教育』。性教育の大切さが語られる中、何をどのように伝える必要があるのか、大人たちも正解がわからない。教育の中でできたこと・できなかったことや実践されてきた物事を知って、世代間のギャップやジェンダー・性多様性のことを考えてみませんか？ワークショップもあります！

ジェンダーや生きかたについて語ろう！

ふらっと！しゃべり場

毎月第1土曜
+ 特別編 (不定期)



年齢・性別不問 お申し込みも不要 市内外を問わず、ご参加大歓迎。

3/1 (土) 14:00~

3/16 (日) 14:00~

なりたいたい私は
いろいろあるけど...?
リアル人間関係やSNS
私の理想の形って
なんだろ。



男性性をテーマにし
た3回目のしゃべり
場です。



市民プラザにて開催。
↑詳細は上のQRから

パネル展示

駅舎展示 3/4(火)正午~3/10(月)

●イエローライトアップ
3/4(火)正午~3/10(月)

●ミモザのバッジ作り
ワークショップ
3/8(土)11:00~12:30

メッセージ募集



国際女性デーに思うこと、パネル展示の感想、私にできる小さな一歩など自由にカードに記入いただき、飾ってください。

おすすめ本・サイトの紹介①

【ジョイセフJOICFP】 <https://joicfp.or.jp/srhr/>

JOICFP



SRHRによって、すべての人が自分らしい生き方を選択できる世界を目指す専門機関JOICFP。SRHRに関するデータ、提言、取り組みに関する様々な情報が掲載されている。

【ピルコン】 <https://pilcon.org/>



中高生向け、保護者向けの性の健康に関する啓発や、政策提言の活動を行う。



動画で学べるサイト、包括的性教育を知るサイトも掲載。



包括的性教育について知る新サイト「+C」▲

【#なんでないのプロジェクト】 <https://www.nandenaino.com/>



避妊や性に関して **頼れる情報**も、**性の健康を守る環境**も、**選択肢**も少ない日本で、生き方、働き方が多様化する昨今、自分のからだのことや働き方を主体的に選択できる環境をつくるためのプロジェクト



おすすめ本・サイトの紹介②



【「日本に性教育はなかった」と言う前に】
ブームとバッシングのあいだで考える

堀川修平著

世代間によって「性教育」が違っていったこと、ご存知ですか？
性教育の「これまで」「これから」「いま」について書かれた本書。
著者の堀川さんは3/23のイベントにお呼びしています！

【セクソロジー】 <https://sexology.life/>

WEBサイト

スマホで読める性の教科書。

「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に基づいて、生殖に限らず
人権の話から人間関係の話まで幅広くカバーしている。



ジェンダー平等のまちをつくる
東京都国立市の挑戦

太田美幸著

パラソルのことも紹介されています！



パネルに関するお問い合わせは

「くにたち男女平等参画ステーション・パラソル」まで



パラソル

くにたち男女平等参画ステーション



info@kuni-sta.com
042-501-6990



パネルをご覧になった方へ

年齢のところにシールを貼って下さい

~10代

20代

30代

40代

50代

60代

70代

80代~

